

こども音楽療育士関連科目 シラバス

(2026 年度参考)

ナンバリング	21161		科目名	幼児と音楽 I	
担当教員	八木澤 香菜				
年度	2026	年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (司)		

授業概要 (1)子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現に関する知識や技術について学びます。(2)保育現場での音楽活動や演奏に必要な音楽理論や楽譜を読む知識を修得します。(3)子どもの成長を引き出す、手遊び歌や歌体操曲をグループワークにより作曲します。

到達目標 (1)子どもの音楽表現の意義や重要性について理解できます。(2)音楽理論に関する知識を深め、豊かな表現ができます。(3)作曲を通して、音楽の基礎知識を演奏に活かすことができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション(1)授業計画(2)既修得の基礎知識の確認
- 02 子どもの音楽表現(1)子どもの音楽表現の意義
- 03 楽譜(1)譜表(2)音部記号
- 04 音符(1)音符の名前(2)音の長さ(3)8小節の作曲 (メロディー)
- 05 休符(1)休符の名前(3)休符の長さ(3)8小節の作曲 (リズム)
- 06 変化記号(1)調号(2)臨時記号(3)小テスト
- 07 拍子(1)拍子記号(2)8小節の作曲
- 08 音楽用語 1 (1)強弱記号(2)奏法記号(3)速度記号
- 09 音楽用語 2 (1)音楽用語カルタ作り(2)カルタ遊び
- 10 演奏の順番(1)反復記号(2)12小節の作曲 (2番までの歌)
- 11 音程と音階(1)全音と半音(2)長音階(3)短音階
- 12 コードネーム(1)コードの仕組み(2)伴奏法(3)小テスト
- 13 作曲(1)題材選び(2)リズム(3)メロディー
- 14 作曲(4)コード(5)振り付け
- 15 作曲(6)発表

授業時間	【事前学修】
外の学修	授業内で小テストを行い、学修内容が身についたかどうか確認します。（学修の目安は1時間程度とする。）
	【事後学修】
	テキストや授業で配布されたプリントを復習してください。（事前事後学修の目安は1時間程度とする。）
評価方法	定期試験(50%)小テスト(20%)提出物(10%)授業への取り組み(20%)
アクティブ ラーニング	グループワーク
フィード バック	小テストは評価を記入して返却します。誤答があった場合は個別にフィードバックを行います。提出物はコメントをつけて返却します。
実務経験	○ 音楽教室での指導経験を活かして、分かり易い実践的な授業を行います。
教科書	やさしく学ぶ「楽典の森」中村寛子 編／長野俊樹 監修／ごとうまきこ イラスト 音楽之友社 2024
参考書	課題に応じて文献資料を紹介
備考	欠席した場合は、配付資料などを確認し、課題内容について把握しておいて下さい。

ナンバリング	21163		科目名	子どもの保健	
担当教員	渡辺 政子				
年度	2026	年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (音療) <input type="checkbox"/> 選択 (司)	

授業概要 子どもの命を守り、健やかな成長を支えるための保健活動の意義や必要性を学びます。さらに、子どもの身体的な発育や発達、心身の健康状態と把握の方法、子どもの疾病とその予防法などを学び、子どもを取り巻く健康問題や課題を理解し、子ども一人ひとりの健康で豊かな成長を支えるために保育士が果たす役割とは何かを学びます。

到達目標 (1) 子どもの健康の意義を理解し、保育における保健活動の目的と役割について説明できます。(2) 子どもの発育と発達について理解し、子どもの健康状態や疾病に対し、その予防や適切な対応等について考え実践につなげることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 授業の概略と到達目標及び生命の保持と情緒の安定のための保健活動の意義と目的
- 02 健康の概念と健康指標
- 03 地域における保健活動と子どもの虐待防止
- 04 わたしたちの体と身体発育（運動機能の発達を含む）
- 05 生理機能の発達と保健
- 06 精神機能の発達と保健
- 07 発育発達の把握と健康診断
- 08 体調の良くない子どもへの対応
- 09 子どものかかりやすい感染症(1) ウイルス感染症
- 10 子どものかかりやすい感染症(2) 細菌感染症
- 11 子どものかかりやすい感染症(3)
学校感染症・予防接種・嘔吐物の処理
- 12 感染症の予防と対応
- 13 子どもにかかりやすい病気(1)

アレルギー疾患

14 子どものかかりやすい病気(2)
その他の病気

15 保育における保健

授業時間 【事前学修】

外の学修 (1) 各授業の前に教科書を読み、その内容を確認しておいてください。(2) 子どもの健康に関するニュースに常に関心を持ち、講義内容に興味をもてるよう調べたり、考えたりしたことをまとめておいてください。(1時間)

【事後学修】

(1) 毎回、授業前に、前回の授業内容の小テストを行います。授業内容についての見直しや確認をし、プリントにまとめてください。(1時間)

評価方法 小テスト (20%)、定期試験(60%)、提出物、授業への取り組み(20%)

アクティブ グループディスカッション、クイズ形式授業、映像活用学習
ラーニング

フィードバック 小テストについては、全体講評のフィードバックを行い、必要があれば個人的に助言を行いながら返却します。

実務経験 ○ 小中学校での実務勤務を活かし、子どもの健康や疾病、感染症、アレルギー、虐待等について実践的な授業を行う。

教科書 鈴木美恵子編著「保育者のための子どもの保健Ⅰ」創成社

参考書 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」
「保育所における感染症対策ガイドライン」

備考 (1)各授業前に前回の授業の復習(定着度を高める)として小テストを行うので、授業後は必ず復習をしておいてください。(2)小テストに関して全体講評のフィードバックを行うので、自主的に取り組み、知識の定着を図ってください。(3)調べ学習やグループディスカッションの授業では、積極的に参加し自分の考えや知識を確かなものにしてください。

ナンバリング	26241		科目名	特別支援教育の基礎		
担当教員	白土 良子					
年度	2026		年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習	
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (司)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (音療)		

授業概要 本講義では、障害児に関する基礎的・基本的な知識を習得し、障害児保育の実践的な方法を学びます。また、インクルーシブ教育システムにおける障害児保育がいかなるものなのかを学びます。講義形態としてグループディスカッションなどを取り入れたり、レポート等を発表したりして支援方法を検討していきます。

到達目標 1. 障害児に関する知識や支援方法を身につけることができます。
2. 障害のある子をもつ親への向き合い方、保護者理解を深めるための方法を学ぶことができます。
3. 特別支援教育に関する原理・制度・歴史を理解し、今日のインクルーシブ保育・教育について説明することができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 特別支援教育の理念と歴史について
- 02 ICFとICIDH／合理的配慮と基礎的環境整備について
- 03 視覚障害の基礎・基本について
- 04 聴覚障害の理解と支援について
- 05 知的障害の理解と支援について
- 06 肢体不自由の理解と支援について
- 07 病弱・虚弱の理解と支援について
- 08 発達障害 学習障害／発達性協調運動障害の理解と支援について
- 09 注意欠陥・多動性障害／自閉症スペクトラムの理解と支援について
- 10 言語障害／情緒障害／多様なニーズのある子どもの理解と支援について
- 11 障害の重い子どもの理解と支援について
- 12 気になる子の教育・保育とアセスメントについて
- 13 個別の指導計画／個別の教育支援計画について
- 14 個別の指導計画／個別の教育支援計画の作成について

- 15 特別支援教育コーディネーターと園内支援体制について
- 16 連続性のある多様な学びの場と教育課程について
- 17 就学先決定の仕組みについて
- 18 小学校との連携の図り方について
- 19 障害のある子の保幼小連携とポイントについて
- 20 関係機関との連携について
- 21 各領域における指導の留意点について 健康／環境／人間関係
- 22 各領域における指導の留意点について 言葉／表現
- 23 インクルーシブ保育・教育について
- 24 子どもの遊びと感覚統合について
- 25 子どもの発達と気になる行動について
- 26 保育におけるアダプテッドについて
- 27 保護者支援・子育て支援にについて
- 28 障害のある幼児の保護者との向き合い方について
- 29 園内・施設内連携の在り方について
- 30 今後の障害児保育の可能性について

授業時間 【事前学修】

外の学修 講義前にテキストの該当する章を読み、分からないごくを調べる。また、特別支援教育や障害児に関連するニュースや新聞記事をノートにまとめておく。(約1時間)

【事後学修】

講義内容について友人等とディスカッションをしたり、自分の意見をノートに整理したりする。(約1時間)

評価方法 レポート50%、ミニレポート50%
 レポート等の評価基準
 1 誤字脱字がなく、内容が分かりやすい (50%)
 2 内容がテーマに沿っており論述的である (40%)
 3 専門用語を解説し、理解している (10%)

アクティブ ラーニング ペア・グループワーク、映像活用学習

フィードバック ミニレポートには評価とコメントをつけて返却します。

実務経験 ○ 教育支援委員(専門委員)や特別支援学校での実務経験を活かし、特別支援教育に関する実践的な授業を行う。

教科書 野内友規・綿引清勝編著 2022年 『気になる子のインクルーシブ教育・保育』中央法規出版株式会社

参考書 必要に応じて講義内で紹介します。

備考 ノートもしくはプリントをきちんと整理し、自分の考えを整理しておくこと。
 合理的配慮が必要な方には申し出に応じて個別に対応します。

ナンバリング	24263		科目名	社会福祉	
担当教員	安藤 みゆき				
年度	2026	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (司)		

授業概要 社会福祉の意義・理念、法制度、歴史、今日の現状と課題を通路まえ、保育者（就学前教育を担当する者）としての基礎的・基本的な専門性を学びます。

- 到達目標
1. 社会福祉の意義・理念を説明することができます。
 2. 社会福祉諸領域における知識・理解を深め、社会福祉の構成要素を理解することができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 社会福祉の理念と歴史の変遷
- 02 子ども家庭支援と社会福祉
- 03 社会福祉の制度と法体系
- 04 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等
- 05 社会福祉の専門職
- 06 社会保障及び関連制度の概要
- 07 相談援助の理論
- 08 相談援助の意義と機能
- 09 相談援助の対象と過程
- 10 相談援助の方法と技術
- 11 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ
- 12 少子高齢化社会における子育て支援
- 13 共生社会の実現と障害者施策
- 14 在宅福祉・地域福祉の推進
- 15 諸外国の社会福祉の動向

授業時間	【事前学修】
外の学修	講義の内容に該当するテキストの箇所を熟読したり、ノートにまとめたりする。社会福祉に関連する新聞記事を切り抜き、ノートやワークシートに整理する。(約2時間)
	【事後学修】
	講義の内容について友人とディスカッションを行い、知識を深めると共に自分の意見等をノートにまとめる。また、分からなかった語句等は図書館で調べる。(約2時間)
評価方法	レポート50%、ミニレポート50% レポート等の評価基準 1 誤字脱字がなく、内容が分かりやすい (50%) 2 内容がテーマに沿っており論述的である (40%) 3 専門用語を解説し、理解している (10%)
アクティブ ラーニング	ペア・グループワーク 映像活用学習
フィード バック	ミニレポートを採点し、評価ないしコメントをつけて返却します。
実務経験	
教科書	ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 中央法規
参考書	必要に応じて講義で紹介します。
備考	ミニレポートの講評をフィードバックします。

ナンバリング	24271		科目名	音楽演習I	
担当教員	八木澤/清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶				
年度	2026	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (司)		

授業概要 子どもの音楽活動を支援するピアノ伴奏や弾き歌いの技能をさらに高めます。個人と小集団のレッスン・演習を組み合わせた授業形態で、各自の弾き歌いを含めたピアノ演奏技能を高めるとともに、保育の場で実際に起こり得る場面を想定した実践的な指導法を学びます。さらに、身につけた発声法を生かして伸びやかな声での表情豊かな弾き歌いを目指します。

到達目標 (1)ピアノの弾き歌いや歌唱の技能を高め、実際の保育の場で子どもたちと楽しく音楽活動ができるようにします。(2)参加者同士が協力して教材研究したり、効果的な指導法を工夫したりする楽しさ感得します。

学位授与【表現文化学科】

の方針

- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション(全体)
個人レッスン：自由選択曲の演奏
- 02 個人レッスン：夏の楽曲のピアノ演奏(伴奏の工夫)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(子どもにあったテンポ・表現)
- 03 個人レッスン：夏の楽曲の弾き歌い(楽曲の構成を生かした表現)
- 04 個人レッスン：秋の歌のピアノ演奏(歌い出しの合図)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(ピアノと歌唱のバランス)
- 05 個人レッスン：秋の楽曲の弾き歌い(発声の基本：発音・口形)
- 06 個人レッスン：生活の歌のピアノ演奏(伴奏の工夫：リズム楽器の導入)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(フレーズを生かした表現)
- 07 個人レッスン：生活の歌の弾き歌い・子どもの歌のピアノ演奏(リズムの特徴を生かしたヒ表現)
- 08 個人レッスン：子どもの歌の弾き歌い(歌詞の内容を生かした表現)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(簡易合奏形態の活動)
- 09 個人レッスン：実際の保育の場を想定した弾き歌い(発声の基本：呼吸・息つぎ)
- 10 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲のピアノ演奏(諸記号の理解)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(子ども(役)を見ながらの弾き歌い)

- 11 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(環境設定の工夫)
※小テスト(ピアノ弾き歌い)課題曲の提示
- 12 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(導入の工夫)
小集団演習：小テスト
- 13 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(展開の工夫)
- 14 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(教材の工夫)
- 15 個人レッスン：既習曲の演奏・保育実習までの練習計画

授業時間 【事前学修】

外の学修 課題となる楽曲の旋律やリズム、歌詞などを把握し、弾き歌いの練習を重ねてください。(約1時間)

【事後学修】

ピアノの弾き歌いの表現を自分なりに工夫するなどして技能の定着を図ってください。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み(50%)小テスト(50%)

アクティブ ラーニング 子どもが主体的に取り組める音楽活動や身体表現を加えてより表現力を高める指導法などについて各自の考えを出し合います。その効果等について子どもの立場になって活動することで検証します。

フィードバック ピアノの弾き歌いや音楽活動についての考えについて、その都度アドバイスをします。授業終了時には各自の記録用紙に評価を加えて返却し、取り組みの成果や課題を明確にします。

実務経験

教科書 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1 ISBN978-4-05-154163-7
保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集2 ISBN978-4-05-154164-4

参考書 幼稚園教諭・保育士養成課程「幼児のための音楽教育」教育芸術社 ISBN978-4-97788-443-7

備考 小集団の演習では、子どもの楽しい音楽活動を促す方法について理解を深めるとともに、保育者役と子ども役に分かれ、実際の保育場面を想定して対象(子ども役)を見ながらのピアノ伴奏や弾き歌いができるようにしていきます。

ナンバリング	25271		科目名	音楽演習II	
担当教員	馬立明美				
年度	2026	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療) <input type="checkbox"/> 選択 (司)	

授業概要 保育の中で様々な年齢、発達段階の子ども達に対応する音楽支援法や技術を習得します。この授業では年齢別季節別の教材や環境構成についての研究や音楽表現の方法をグループワークで考察し、幼稚園で実践します。子どもの好きな音や歌についてこうさすします。また、四季の歌と手遊び歌を把握し指導案を作成し実践できるようになります。

到達目標

- (1) 子どもの発達を理解し年齢に応じた音楽を考察し季節の歌、楽器あそび、手あそびを学修し自信をもって指導ができるようになります。
- (2) 絵本や紙芝居に音やリズムをつけることができるようになります。
- (3) 音楽の基礎知識に加え教材研究や作成ができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション
実習の振り返り (グループワーク) マイノート作成開始
- 02 保育者に必要な音楽基礎知識 伴奏法
- 03 楽器遊びを中心とした表現活動 楽器の種類と取り扱い方・演奏法
- 04 子どもの音楽表現1 紙芝居と音楽 (教材選び・グループ決定) グループワーク
- 05 子どもの音楽表現2 紙芝居と音楽 (読み合わせ・音合わせ) グループワーク
- 06 子どもの音楽表現3 紙芝居と音楽 (リハーサル) グループワーク
- 07 子どもの音楽表現4 紙芝居と音楽 (幼稚園での実践) グループワーク
- 08 子どもの音楽表現5 紙芝居と音楽 (振り返り)
- 09 子どもと音楽1 (リズム遊び)
- 10 子どもと音楽2 (わらべうた) ・マイノート作成
- 11 子どもと音楽3 (季節の歌) ・マイノート作成
- 12 赤ちゃんと子どもの音楽表現

- 13 年齢別指導計画および発表（0・1・2歳児）
- 14 年齢別指導計画および発表（3・4・5歳児）
- 15 まとめ 子どもの現場での音楽表現活動

授業時間 【事前学修】

外の学修 これまで学修した楽譜をまとめて多くの曲を把握しておいてください。また、絵本や紙芝居に合わせる音を考えておいてください。(約1時間)

【事後学修】

他グループの発表の音楽も参考にして絵本に合わせる音を実践してみましょう。また、就職に向けて伴奏や弾き歌い、手遊びのレパートリーを増やしておいてください。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み50%、課題のプリント提出30%、成果発表20%

アクティブ ラーニング グループディスカッション クリエイティブセッション

フィードバック 提出ノートには、教員のコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 幼稚園、保育園での音楽指導および小学校、中学校の音楽教員、保育者養成校での音楽表現授業の実務経験を活かし様々な音楽表現活動について実践的な授業を行います。

教科書 大海由佳 古谷和子 肝付文子（2015）保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第1・2巻 選べる3ステップ

参考書 今泉明美 有村さやか編著（2018）幼稚園教諭・保育士養成課程『子どものための音楽表現技術』萌文書林

備考 授業内での発表について、その都度フィードバックを行います。

ナンバリング	25242		科目名	幼児理解と教育相談		
担当教員	白土 良子					
年度	2026	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科	
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習	
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (司)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療)		

授業概要 現代の子どもを取り巻く生活環境や幼児期の発達の道筋、特徴、親子関係について学びます。また、子どもや保護者に対しての保育・教育相談の基本的知識・技術について学びます。

到達目標 1. 幼児の心身の発達への理解を深めるとともに、カウンセリングマインドをもった支援方法について身に付けることができます。
2. 保護者との相談活動のすすめ方や来談者中心療法をはじめとするカウンセリングのスキルを習得することができます。
3. 子育て支援の背景を踏まえ、保護者への支援、地域の子育て家庭への支援のあり方を理解することができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 保育の場における相談ニーズとカウンセリング・マインド
- 02 子どもの発達理解と相談・支援
- 03 保護者への対応(1)親子の関係づくりの支援
- 04 保護者への対応(2)親育ちのための発達支援
- 05 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(1)発達障害や気になる子どもについて
- 06 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(2)保護者へのかかわり
- 07 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ(1)子どもの発達とアセスメント
- 08 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ(2)カウンセリングの基礎理論
- 09 保育現場でのカウンセリング技法の活用(1)カウンセリングの基本事項
- 10 保育現場でのカウンセリング技法の活用(2)カウンセリングの技法
- 11 園・地域における専門家との連携による相談・支援
- 12 保育者の専門性と相談活動
- 13 基礎対人関係のトレーニング

14 保護者への対応事例検討

15 子どもへの対応事例検討

授業時間	【事前学修】
外の学修	保育現場における子ども・保護者の理解とカウンセリングに関することを調べ、ノートにまとめる。(約1時間)
	【事後学修】
	発達や育児に困難や課題を抱える親子や家族への理解を深めるために新聞やニュースを見て気づいたことをノートにまとめたり、教科書の演習課題に取り組んだりする。(約1時間)

評価方法	レポート50%、ミニレポート50%
	レポートの評価基準
	1 誤字脱字がなく、丁寧に書くことができる (50%)
	2 内容がテーマに即している (40%)
	3 専門用語を説明でき、論理的に記述することができる (10%)

アクティブ ラーニング	ペアグループワーク 映像活用学習 ケースメソッド
----------------	--------------------------

フィード バック	ミニレポートには、評価と教員のコメントを記入して返却します。
-------------	--------------------------------

実務経験	○ 教育支援委員会の教育支援委員、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターとしてのスキルを実務経験を生かし、子どもの実態把握の方法等について提示しながら実践的な授業を行う。
------	---

教科書	小田豊 秋田喜代美編『新時代の保育双書 子どもの理解と保育・教育相談』株式会社みらい
-----	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。
-----	-------------------

備考	授業の最初に前回の内容のフィードバックを行います。また、授業内での発表について、その都度、フィードバックを行います。 合理的配慮が必要な方には申し出に応じて個別に対応します。
----	--

ナンバリング	22261		科目名	音楽演習III	
担当教員	高野 華絵				
年度	2026	年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療) <input type="checkbox"/> 選択 (司)	

授業概要 表現や鑑賞の活動を通して各自の音楽的感覚を高め、子どもたちとともに音楽活動を楽しみ、心豊かな生活が送れる資質と能力を身につけていきます。また、合唱などの活動を通して基本的な発声法を修得し、より響きのる声で歌唱や弾き歌いができるようになります。

到達目標 (1)響きのある声によるハーモニーの美しさを体験します。(2)音楽表現の基本となる楽譜や諸記号についての理解を深め、表現力のある音楽を創りあげることができるようにします。(3)子どもにとって楽しい音楽活動の指導法を修得します。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (1)毎日のボイストレーニング(2)校歌練習
- 02 基礎練習 (1)発声の基本(正しい発音)(2)校歌練習
- 03 基礎練習 (1)発声の基本(呼吸法)(2)3人グループでのハーモニーづくり
- 04 基礎練習 (1)発声の基本(響きのある声)※以後一定時間発声練習を行う。(2)グループ発表
- 05 合唱曲1 (1)パート編成・パート練習(2)諸記号の理解と表現
- 06 合唱曲1 (1)パート練習・全体練習(2)音を聴く力を鍛える(聴音書き取り)
- 07 合唱曲1 (1)全体練習・表現の工夫(2)音を聴く力を鍛える(聴音書き取り)
- 08 合唱曲2 (1)パート練習・全体練習(2)リズム感を鍛える(様々なパターンのリズム打ち)
- 09 合唱曲2 (1)全体練習・表現の工夫(2)リズム感を鍛える(様々なパターンのリズム打ち)
- 10 子どもと音楽1 想像力を広げる鑑賞活動※以後一定時間合唱練習を行う。
- 11 子どもと音楽2 子どもに分かりやすい指揮法・演習
- 12 子どもと音楽3 (1)子どもの声域(2)生活の中の音楽
- 13 合唱曲1のまとめ(1)2つの合唱グループの発表(2)発表についての協議(ハーモニー、バランス、テンポ、表現の工夫、指揮等を観点とする。)

- 14 合唱曲2のまとめ(1)2つの合唱グループの発表(2)発表についての協議(ハーモニー、バランス、テンポ、表現の工夫。指揮等を観点とする)(3)小テスト
- 15 まとめ(1)小テストの見直し(2)合唱曲1・2 (表現のある合唱を目指して)

授業時間 【事前学修】

外の学修 日頃から自分の声に意識を向け、声の響きや発音に注意した発声を心がけます。また、合唱曲における自分のパートの旋律やリズムを正確に把握できるよう練習します。(約1時間)

【事後学修】

課題となったこと(発声やリズム、記号の意味など)について自主練習したり調べたりします。また、友人とハーモニーをとる練習をします。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み(50%) 小テスト(50%)

アクティブ ラーニング 授業終了時にワークシートを用いて授業への取り組みや内容の修得状況を自己評価し、次時への課題を明確にします。

フィードバック 毎回提出されるワークシートに授業への取り組みや内容の修得状況に関しての賞賛や励まし、課題に関するアドバイス等を記載して各自に返却します。

実務経験

教科書 なし

参考書 基本のボイストレーニング 根本茜津 西東社(2014)

備考 この授業では毎回一定時間発声練習を行い、より響きのある声の実現を目指します。また、メンバー全員が協力して合唱曲をまとめていく楽しさを体感してもらいます。

ナンバリング	25263		科目名	子どもの健康と安全		
担当教員	渡辺 政子					
年度	2026	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科	
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習	
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (司)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (音療)		

授業概要 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における健康及び安全の管理、子どもの発達や体調不良等の状態に即した適切な対応について具体的に理解する授業です。また、健康や安全管理の計画や評価、組織的取組について具体的に理解する授業です。

到達目標 (1)子どもの体調不良やけが等について適切な対応を行うことができます。(2)保育における適切な健康や安全の管理ができます。(3)健康や安全の管理のための関係諸機関との連携について説明できます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 授業の概略と到達目標についておよび子どもの健康と保育環境
演習：バイタルサインの測定
- 02 保育における衛生管理
演習：嘔吐物の適切な処理の仕方
- 03 子どもの事故防止および安全対策
演習：保育実習中のけがについて
(グループディスカッション)
幼児視野体験
- 04 危機管理と災害への備え(1)
演習：危険予知訓練シート(グループディスカッション)
- 05 救急処置及び心肺蘇生法(1)
演習：乳幼児の心肺蘇生法 (AEDの使用法を含む)
- 06 救急処置及び心肺蘇生法(2)
演習：気道異物除法
- 07 体調不良時の対応と応急処置
演習：手当の仕方(ロールプレイ)
- 08 傷害時の対応と応急処置
演習：包帯法、三角巾の使い方

- 09 感染症の予防と発生時の対応
演習：感染症予防と対応についてのほけんだより作成
- 10 個別的な配慮を要する子どもへや障害をもつ子どもへの対応
演習：医療的ケア児への対応（グループディスカッション）
- 11 個別的な配慮を要する子どもへの対応(アレルギー疾患)
演習:アナフィラキシーショック時の対応とエピペンノの使い方
- 12 3歳児未満児の対応
演習：抱き方、沐浴の仕方、オムツの替え方
- 13 保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携
演習：虐待が疑われる場合のケース会議（ロールプレイ）
- 14 保育における保健活動の計画及び評価
演習：保健計画の作成（グループワーク）
- 15 課題発表

授業時間 【事前学修】

外の学修 次回の授業内容を教科書で確認し、その内容について、実習中自分が見たり行ったりしたことをプリントにまとめる。(約1時間)

【事後学修】

授業で行った演習について、その手技や注意点をプリントにまとめる。さらに、授業の中で興味があった内容について各自調べプリントにまとめる。(約1時間)

評価方法 (1)授業への取り組み・提出プリント(40%) (2)定期試験(60%)
15回の授業の後定期試験を実施する。

アクティブ ラーニング グループディスカッション、ロールプレイ、グループワーク、体験学習

フィードバック 授業ごとに提出してもらいアクションペーパーに、コメントや評価を記入して返却します。

実務経験 ○ 小中学校での養護教諭としての実務勤務を活かし、子どもの健康面安全面の指導や管理について実践的な授業を行います。

教科書 授業で現場で役に立つ 子どもの健康と安全演習ノート 小林美由紀編著 診断と治療社 ISBN978-4-7878-2702-9

参考書 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成31年4月、厚生労働省）
「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月 厚生労働省）
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）

備考

ナンバリング	25263		科目名	子ども家庭支援の心理学		
担当教員	森井 榮治					
年度	2026	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科	
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習	
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (司)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (音療)		

授業概要 この授業では、生涯発達という観点から、乳幼児期から老年期までの発達課題について学びます。次に、子どもの発達に重要な役割を果たす家族・家庭に意義や機能、親子・家族関係について理解するとともに、子育て家庭を巡る現代の社会状況と課題について学びます。さらに、子どもの心身の健康と保健について理解し、精神疾患や障害のある子どもの支援について学びます。また、授業の視点として、細やかな配慮のもと、学生自身の体験を踏まえながら考えることも大切にしたい。なお、学生一人一人の特性や実態を考慮し、グループディスカッションなどのグループ編成や学習活動・形態、資料の提示方法に配慮する。

到達目標 (1)生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題等について理解することができます。(2)家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係や家庭環境等について発達の観点から、子どもとその家庭を包括的に捉えることができます。(3)子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができます。(4)子どもの精神保健とその課題について理解することができます。

学位授与【表現文化学科】

の方針

- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 乳児期の発達
- 02 幼児期の発達
- 03 学童期の発達
- 04 青年期の発達
- 05 成人期・中年期の発達
- 06 高齢期の発達
- 07 家族・家庭の意義と機能
- 08 家族関係・親子関係の理解
- 09 子育ての経験と親としての育ちについての理解
- 10 子育てを取り巻く社会状況についての理解
- 11 ライフコースと仕事・子育てについての理解

- 12 多様な家庭とその理解と支援
- 13 特別な配慮を必要とする家庭への支援
- 14 子どもの生活・生育環境とその影響についての理解
- 15 子どものこころの健康にかかわる問題についての理解と支援

授業時間 【事前学修】

外の学修 次時の学修課題のワークシートを教科書、資料を使いまとめる。子育て家庭支援に関する新聞記事等を収集しコメントをする（約2時間）

【事後学修】

学修内容に関する課題をまとめ提出する。授業で使ったワークシートや配付された資料を使い、授業の復習と振り返りする。（約2時間）

評価方法 授業への取組30%
授業ワークシート等提出物40%
定期試験30%

アクティブ
ラーニング ・報道記事、自分の経験や体験、実習時の体験をもとにグループディスカッションを実施する。・授業のテーマに関するワークシートの作成し、学習課題に関する自分の考えをまとめる。

フィード
バック 授業に関するワークシートに記載された学生の考え、主張に対しコメントすることで、多様な考え方や新たな気づき等を促す。

実務経験 ○ 小中学校において生徒指導や教育相談を担当していた経験を生かし、様々な課題を抱える子どもや保護者の支援のあり方を、生涯発達や家族や親子関係、子どもの精神保健等の観点から考えます。また、子ども子育てに関する審議会員を務めていることから、幼児教育の課題や子育て家庭の抱えている課題に対し、幼稚園や保育園等の施設ばかりでなく、身近な行政、地域社会が行っている具体的施策についても触れていきたい

教科書 新基本保育シリーズ9「子ども家庭支援の心理学」監修・公益財団法人児童育成協会、編集・白川佳子、福丸由佳 中央法規

参考書 保育所保育指針(厚生労働省)・幼稚園教育要領(文部科学省)・その他、授業中に適宜紹介をします。

備考 提出された課題は、授業の中で取り上げます。また、評価の対象となります。
那珂市保健福祉部こども課の子育て支援担当者から、行政における実際の取組、現状などについて事例をあげて講演をしていただき、これに関するレポートをまとめます。

ナンバリング	21271		科目名	こども音楽療育概論		
担当教員	馬立 明美					
年度	2026	年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科	
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習	
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療) <input type="checkbox"/> 選択 (司)		

授業概要 音楽の始まりや音楽の社会的、心理的、生理的働きについて学び、子どもの心身の発達過程と音楽的発達との関係、音楽と遊びの関係、音楽療育の意義についてグループに分かれディスカッションを交え考察していきます。また、様々な障がい児についての理解を深めながら、音楽療育活動を行うための基礎知識・専門知識を修得します。

到達目標 (1)音楽療育の基礎知識を説明できるようになります。(2)子どもの音楽療育活動の実際から、日常の保育に活かす音楽活動やこども音楽療育について考察することができるようになります。(3)音楽による子どもの脳と心や体の変容をケースで学び理解を深め、実践に活かすことができるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション こども音楽療育士の資格について
- 02 子どもと音楽：子どもにとってのリズムと音
- 03 音楽療育の意味：目的と方法
- 04 音楽の働き：生活の中の音・音楽 なぜ音楽なのか
- 05 障害児の理解1：発達障害児と音楽
- 06 障害児の理解2：重症心身障害児の理解
- 07 障害児の理解3：様々な障害とその生活 障害児と音楽
- 08 音楽・音楽療法の歴史：音や音楽の意味、音楽の始まり
- 09 障害児と子育て支援：保護者への支援 多職種との連携
- 10 こども音楽療育で使用する楽器：音の大きさ、楽器の大きさ、鳴らし方の工夫
- 11 こども音楽療育で使用する用具：形、色、大きさ、持ちやすさの工夫
- 12 音楽療育と音楽教育：アセスメントの重要性（子どもに寄り添うには）乳幼児と音楽
- 13 こども音楽療育の現場：障害児または障害児を含む子どもたちへの支援方法

14 こども音楽療育実習に向けての心構え：挨拶声かけの言葉選び

15 まとめ：こども音楽療育士に求められるもの

授業時間 【事前学修】

外の学修 これまで経験した音楽や、生活の中の音やリズムなどに目を向け、音楽の使われる場面や自分自身が心地よいと感じる音などを書き留めておいてください。また、日常の中の音に耳を傾け、その音の意味を考えておいてください。（約2時間）

【事後学修】

授業で学んだことや疑問に感じたこと（音楽の歴史、音楽の効果など）について家族や友人とディスカッションを行い、自分や周りの意見をまとめてください。（約2時間）

評価方法 授業への取り組み40%、小テスト2回（到達度を確認するためのもの）30% 提出物30%

アクティブ ラーニング グループディスカッション ロールプレイ 映像活用学習

フィードバック 提出ノートやプリントには、評価と教員のコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 児童発達支援センター、重症心身障害児施設、児童心理治療施設での音楽療法士としての経験を活かし、こども音楽療育士として実践するための基礎知識、専門的知識を修得する授業を行います。

教科書 馬立明美・小澤和恵・鈴木泰子・園川緑共著（2026）『動画で学ぶ子どもとともにひらく音楽あそび』萌文書林

参考書 下川英子著（2011）『統合保育・教育現場に応用する 音楽療法・音あそび』音楽之友社
その他必要に応じて適宜配布

備考 ・観察実習、ワークショップに向けて、多くの手あそび歌、季節の歌を習得すると指導案プログラムが広がります。見たり聴いたりして自分のものにしておくことを望みます。

ナンバリング	21141		科目名	保育の心理学		
担当教員	安藤 みゆき					
年度	2026	年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科	
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習	
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (司)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (音療)		

授業概要 乳幼児の心身の発達と保育実践について理解を深め、発達段階に応じた適切な援助ができるようになるための知識を学びます。また、遊びと環境を通して育ち、学んでいく子どもの姿や経験の過程についても理解を深めていきます。さらに子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性について考察を深めていきます。

到達目標 (1) 乳幼児の心身の状態や行動を把握する技術や適切な発達援助の方法について説明することができます。(2) 保育者としての立場を想定した事例課題に取り組むことで、子どもたちの心身の発達について考える習慣を身に付けることができます。(3) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助のための子ども理解を身に付けることができます。(4) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互作用的な関りや体験、環境の意義を理解することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション(1)子どもの発達を理解することの意義 (2) 保育における心理学と保育者の役割 (発達心理学の概念から)
- 02 発達段階の理解 (フロイト、エリクソン、ヴィゴツキーの理論を基に)
- 03 ピアジェの認知理論 (1) 発達段階の理解 (2) 自己中心性
- 04 子どもを取り巻く環境 (1) 子どもの発達と環境 (2) 直接的影響と間接的影響 (3) 居場所の特徴と広がり
- 05 環境移行に伴う心理的变化と保育者の支援の在り方 小テスト1回目
- 06 乳幼児と養育者の関係性 (1) 社会情動的発達 (2) 愛着理論 (3) 人見知り (4) 社会的参照
- 07 情緒及び関係性の発達 (1) 一次的感情と二次的感情 (2) 他者の情緒の理解 (3) 二項関係と三項関係 (4) 心の理論
- 08 子どもの遊び (1) 遊びの発達 (2) 一人遊びの重要性
- 09 役割取得の発達 (1) ごっこ遊び (2) ジェンダー意識
- 10 仲間関係 (1) 発達に応じた仲間関係 (2) いざこざ (3) 仲間入り

- 11 自己の発達 (1) 乳幼児の自己感 (2) 各月齢における自己意識
- 12 自己抑制と自己主張
- 13 子どもの学びと保育 小テスト 2回目
- 14 言語の発達
- 15 発達障害について (グループディスカッション)

授業時間 【事前学修】

外の学修 次回の授業範囲のテキストを読み、意味の分からない言葉や興味を持った内容についてノートにまとめてください。(約2時間)

【事後学修】

授業内容について復習し、さらに詳しく調べたことについてノートにまとめてください。(約2時間)

評価方法

小テスト 2回60%、レポート40%

レポートの評価基準：1. 字数や提出期限を守ることができている (10%) 2. 誤字脱字がなく、表現が適切である (10%) 3. 内容がテーマに即して適切である (30%) 4. 論理的にわかりやすく展開されている (20%) 5. 課題の考察が充分である (30%)

アクティブ
ラーニング

グループディスカッション

フィード
バック

小テストについては、全体講評のフィードバックを行います。

実務経験

○ 乳幼児健診の心理相談員の実務経験を通して、乳幼児の発達について実践的な授業を行う。

教科書

「アタッチメントがわかる本」遠藤利彦監修 講談社

参考書

備考

ナンバリング	25252		科目名	子どもの理解と援助		
担当教員	加茂川 くるみ					
年度	2026	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科	
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習	
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (司)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input checked="" type="checkbox"/> 選択 (音療)		

授業概要 実際の保育実践にあたり、目の前の子どもをどのように理解していくか、更には子どもの心身の発達や環境の違いによって、子どもたちの様子を正確に捉えるための視点や観点を具体例や実践例を提示し、その目を養う。また実践例や資料から、グループ討議や演習をして、相互に保育者としての見取りの力や対応力の向上を図りたい。その上で、配慮を要する子どもの保育や就学に向けた支援についても目を向けられる広い視野をもつ保育者の育成を目指す。

到達目標

- 1 保育実践するにあたり、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握する意義を理解することができる。
- 2 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解することができる。
- 3 現場の実態例や実践事例をとおり、子どもを理解するためのその場に応じた具体的な方法を理解することができる。
- 4 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解し、実践に即して使いこなすことができる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針**
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 保育における子ども理解の意義
 - ・保育者の仕事と子ども理解
 - ・保育所保育指針と子ども理解
 - ・演習
- 02 子どもに対するかかわりと共感的理解
 - ・共感的理解とは
 - ・演習
 - ・アクスラインの遊戯的療法の8原則
- 03 子どもの生活や遊び
 - ・乳幼児の生活と基本的生活習慣の獲得
 - ・乳幼児期の遊び
 - ・演習
- 04 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
 - ・子どもの発達と保育者の役割
 - ・保育者のかかわりで子どもが変わる
 - ・演習
- 05 子ども相互のかかわりと関係づくり
 - ・3歳未満児、3歳以上児におけるかかわり
 - ・子ども相互のかかわりを生み出すもの
 - ・演習
- 06 集団における経験と育ち
 - ・クラス集団との出会い
 - ・遊び集団の成立
 - ・異年齢集団の中の子どもの育ち
 - ・演習
- 07 発達における葛藤やつまずき
 - ・いざこざの発達の变化と保育者の援助
 - ・自我の発達にかかわる保育者の援助
 - ・演習

- 08 保育者の環境と理解と構成
 ・環境とは 子どもと環境・保育者の環境・環境構成の原則 ・演習 ・環境が脳をつくる
- 09 環境の変化や移行
 ・さまざまな環境の変化や移行の場面 ・環境の変化や移行に影響する要因 ・演習
- 10 子ども理解のための観察・記録と省察・評価
 ・保育における「子ども理解」とは ・子どもを理解する方法 ・演習
- 11 子ども理解のための職員間の対話・同僚性
 ・保育における対話と協働 ・対話の機会を生む保育カンファレンス ・演習
- 12 子ども理解のための保護者との情報共有
 ・保育所保育指針等みる保育者との情報共有 ・演習 ・子ども理解のための保護者との情報共有のポイント
- 13 発達の課題に応じた援助とかかわり
 ・個人差と発達過程 ・発達の課題に応じた保育実践 ・演習
- 14 特別な配慮を要する子どもの理解と援助
 ・特別な配慮を要する子どもとは ・インクルーシブ教育 ・理解されにくい子どもへの配慮と援助 ・演習
- 15 全体のまとめ
 発達の連続性と就学への支援
 ・幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性 ・幼小接続期におけるさまざまな連携 ・演習

授業時間 【事前学修】

外の学修
 ・次時の課題を知り必要な資料を集めたり専門用語の確認をしたりしておく。また、保育にかかわる報道記事などを集めたり、自分なりの考えや疑問を書きとめておく。(随時)
 ・授業でえた知識や技術さらに教育実習をとおしての経験を基に、保育者としての在り方について自分の考えをまとめておく。(約1時間)

【事後学修】

- ・授業内でまとめた記録や小レポートは内省し事後の感想など書き入れ実践に生かすようにする。(1時間)
- ・保育者を目指す仲間との意見交換など授業の中の演習を大切に、実習など授業外で主体的に子どもにかかわっていく。

評価方法

・授業内小レポート3回提出 60%・授業・演習への取組・記録用紙毎回 40%
 評価基準 1 求められている課題に内容が即しているか。(20%)
 2 課題の考察が十分に授業内容を加味したものになっているか。(20%)
 3 内容が自分のものとして、内省できているか。(20%)

アクティブ
ラーニング

・5名程度の少人数によるワークショップで自分の考えまとめたりお互いの考えを共有したりする活動を通して自分の考えを深め広げていく。
 ・演習やグループディスカッション後自分の経験と関連させて振り返りをするリフレクティブジャーナル実施
 ・授業内にキーワードを挙げそれについての自分の考えを小レポートにまとめるキーワードレポートを実施

フィード
バック

・グループディスカッション後のグループ発表を相互に聞く際に、保育に対しての自分の考えが深まったり、違った視点の発見や視野が広がるような聞き方を課します。
 ・小レポートについては、必ず内省できるような教員のコメントを記入し返却します。

実務経験

○ 小中学校や幼稚園勤務経験を活かし、幼児教育の重要性と小学校への接続について、現場の実態をとおして、今後の保育者としてどう在るべきかまでを考え、自ら意欲的に保育者としての資質向上を目指そうとする姿勢が養えるようにしたいと考えています。

教科書

新基本保育シリーズ@子どもの理解と援助 中央法規 清水益治 森俊之編集

参考書

その他必要に応じ、授業内で適宜紹介する。

備考

ワークショップやグループディスカッションに、積極的に参加するには自分の考えを常に持っていることが重要です。幼児教育に関することについて情報をあつめ、関心をもつてのぞみましょう。

ナンバリング	22271		科目名	こども音楽療育演習		
担当教員	馬立明美/八木澤香菜					
年度	2026	年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科	
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習	
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療) <input type="checkbox"/> 選択 (司)		

授業概要 障害児および障害児を含む保育の現場で活用できる歌唱、手遊び、身体運動、楽器活動を体験し、音楽療育指導案の作成ができるようになります。また、障害児を理解した上で、音やリズムを通してのかかわり方を学ぶとともに、日常の保育の中で寄り添った音楽が提供できるための技法を実践します。

到達目標 アセスメント、プログラム、指導案の作成、楽器や楽譜の準備、会場の環境設定の方法が習得できます。また、楽器の鳴らし方、用具の使い方、提供の方法をロールプレイングシュミレーションにより実践できるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション こども音楽療育士の活動について
- 02 音楽の力 子どもと音楽 (1)わらべうた (2)童謡・唱歌を探る
- 03 療育としての音楽1 (1)楽器の種類と使い方 (2)音の鳴り方
- 04 療育としての音楽2 (1)用具、道具の活用法 (2)感覚刺激
- 05 音楽のジャンルと使い方 (1)歌唱 (2)リズム体操 (3)楽器活動 (4)手あそび歌
- 06 楽器あそびと合奏1 (1)リズム楽器 (2)ドラムサークル
- 07 楽器あそびと合奏2 (1)音階楽器 (2)旋律と和音
- 08 音楽療育用具 (1)制作、修理 (楽器・用具) (2)歌詞、ペープサート グループワーク
- 09 音楽療育用具 歌と道具のコラボレーション
グループ発表とディスカッション
- 10 親子音楽セッションの意味と目的 保護者への対応法
子どもの身体と心を動かす音楽の使い方
- 11 保育に活かす音楽1 年齢ごとの歌あそび、手あそび (模倣・創作)
- 12 保育に活かす音楽2 状態ごとの歌体操、リズム体操、ゴーストアップ 子どもを想定したセッション
- 13 実習に向けて1 指導計画案 (グループワーク) (障害児を含む園児の場合)

14 実習にむけて2 ディスカッションによるプログラム作成 (グループワーク)

15 こども音楽療育演習のまとめと実習に向けて (音楽療育でできること)

授業時間 【事前学修】

外の学修 様々なジャンルの音楽に親しみ、季節の歌や手遊び歌、わらべうたなどを覚えておいてください。(約1時間) 保護者の好きな曲も考えましょう。

【事後学修】

小物楽器 (鈴やかスタネットなど) の鳴らし方、使用方法の工夫を書き残し、実践できるようにしましょう。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み50%、提出物 (指導案プログラム、プリントなど) 50%

アクティブ ラーニング ロールプレイングシュミレーション グループディスカッション

フィードバック 提出ノート・プリントには教員のコメントと評価を記入して返却します。

実務経験 ○ 児童発達支援センター、重症心身障害児・者施設、児童心理治療施設で音楽療法士としての実務経験を活かし、こども音楽療育演習について実践できるための授業を行う。

教科書 適宜プリントを配布します。

参考書 板野和彦著 (2015) 『一人一人を大切にする ユニバーサルデザインの音楽表現』 萌文書林
下川英子著 (2011) 『音楽療法・音あそび 統合保育・教育現場に応用する』 音楽之友社

備考 ・授業内での発表やロールプレイングシュミレーションについて、その都度、フィードバックを行います。

ナンバリング	26271	23271	科目名	こども音楽療育実習		
担当教員	馬立明美/八木澤香菜					
年度	2026		年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input type="checkbox"/> 表現文化学科 <input checked="" type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	
区分	<input type="checkbox"/> 必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択必修 (卒) <input type="checkbox"/> 選択 (卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修 (幼) <input type="checkbox"/> 必修 (司) <input type="checkbox"/> 必修 (保) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘) <input checked="" type="checkbox"/> 必修 (音療) <input type="checkbox"/> 必修 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修 (准) <input type="checkbox"/> 選択必修 (幼)	<input type="checkbox"/> 選択必修 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘) <input type="checkbox"/> 選択 (幼) <input type="checkbox"/> 選択 (上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択 (保) <input type="checkbox"/> 選択 (音療) <input type="checkbox"/> 選択 (司)		

授業概要 障害児施設、障害児の特性や発達段階を理解した上で、障害児施設で行っている音楽療育、音楽療法を見学、観察します。また、音楽指導案、プログラム作成、教材選び、楽器準備、環境構成などを整え、付属幼稚園および校内ワークショップで音楽療育の実習を行います。

到達目標

- (1)ワークショップを実施するまでの方法を学び、実習に臨むことができます。
- (2)アセスメント、プログラム作成、楽器や用具の準備を整え子どもに寄り添った音楽活動での対応ができるようになります。
- (3)こども音楽療育実習日誌の書き方を理解し記入できるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス こども音楽療育実習の意義・目的・内容について
観察実習事前指導（1）実習日誌の書き方・アセスメントについて
- 02 観察実習事前指導（2）各障害児施設について 役割と機能、支援法
- 03 こども音楽療育見学・観察実習1-1（児童発達支援センター）
- 04 こども音楽療育見学・観察実習1-2（児童発達支援センター）
- 05 こども音楽療育見学・観察実習2-1（重症心身障害児通園施設）
- 06 こども音楽療育見学・観察実習2-2（重症心身障害児通園施設）
- 07 こども音楽療育見学・観察実習3-1（ワークショップ観察）
- 08 こども音楽療育見学・観察実習3-2（ワークショップ観察）
- 09 こども音楽療育見学・観察実習 フィードバック・発表
- 10 付属幼稚園実習に向けて（1）グループワークによる指導案、プログラム作成
- 11 付属幼稚園実習に向けて（2）グループワークによる指導案まとめ 使用楽器、教材作成準備
- 12 付属幼稚園実習に向けて（3）ディスカッションにより担当・進行内容の確認
- 13 付属幼稚園実習に向けて（4）担当ごとの準備（用具作成・個人練習・MCなど）

14 附属幼稚園実習準備 模擬セッション（1）

15 附属幼稚園実習

授業時間 外の学修	【事前学修】 作成した指導案・プログラムを把握し、伴奏の練習、歌唱の歌詞や手遊びをしっかりと覚えてください。（約2時間程度） 【事後学修】 実習を振り返り、行ったこと、声かけ、子どもの様子や反応、感じたことを丁寧に実習日誌に記録してまとめてください。（約2時間程度）
評価方法	授業への取り組み30%、プログラム作成と実習日誌30%、附属幼稚園実習およびワークショップへの参加意欲40%
アクティブ ラーニング	グループディスカッション クリエイティブセッション ケースメソッド
フィード バック	提出プリント、ノートには、評価と教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	○ 児童心理治療施設、児童発達支援センター、重症心身障害児・者施設で音楽療法士としての実務経験を 活かしこども音楽療育実習について実践的な授業を行います。
教科書	必要に応じ適宜資料を配布
参考書	島田徳英(2013)「簡易伴奏による実用版こどものポップス大集合」デプロMP 下川英子 (2011) 『音楽療法・音あそび 統合保育・教育現場に応用する』音楽之友社
備考	授業内および実習内で、その都度フィードバックを行います。 *施設での観察実習（一人3回）附属幼稚園実習（一人1回） 学内ワークショップ（一人1回）
